MfG_J_Guidebook_Vol_2_Omoya_Saffron_Shu
機那サフラン酒本舗　ガイドブック「鏝絵蔵編」

機那サフラン酒本舗の、鏝絵蔵を主体としたガイドブックです。
分冊として、全体概説編、鏝絵蔵編、主屋編、庭園編、離れ編を
用意ししています。

０. 本ガイドブックの目標

１. 仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想い
図表
２. 鏝絵蔵・鏝絵の配置のテーマ

３. 写真と解説

この他にも、多くの情報ファイルを用意していますので、適宜参照願います。

庭園、離れについては、別途、作成しますが、暫定的に英文版も参照下さい。
MfG_E_Guidebook_Vol_3_Garden_Saffron_Shu.pdf
MfG_E_Guidebook_Vol_4_Annex_Saffron_Shu.pdf
MfG_J_calligraphy_and_art_in_Kina-Saffron_Shu.pdf
MfG_J_saffron_annex_japanese_garden.pdf

0. 本ガイドブックの目標

一人で散策を楽しむときの、音声ガイドの替わりとなり、
必要に応じて、もよりのガイドに質問するときに役立つような、
簡便なガイドブックを目指しています。

1. 仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想い

サフラン物語でも説明しておりますが、仁太郎の鏝絵蔵の図に込めた想いの「私的な珍説」です。

鏝絵の構想を練るにあたり、仁太郎は左官の伊吉とあちこち旅行したそうで、魚沼の西福寺の開山堂も参考にしたとされています。どんな鏝絵にしようか、考えながら雲蝶の力作を見た仁太郎は、道元の虎をも諭す物語を、自分の蔵にも是非ほしいと願ったに相違ないと、思った次第です。 そして「何らかの祈り」を新築事務所の鏝絵に込めたのではないか、と考えてみると ・・・

鏝絵蔵の妻側である東向きに面した、軒廻りの二頭の龍、一階と二階の窓の塗戸の霊獣を、以下のように読み解くこともできると思います。
まず軒廻りの二頭の龍は、東面を守護する青龍と、四霊獣の上に位置する黄竜と見做します。一階、二階の塗戸には、南・北を守護する鳳凰と玄武です。でも東西南北の順に、青竜、白虎、朱雀、玄武が守護神とされていますが、この東面には、西の守護神である白虎がおりません。
そこで、鏝絵蔵北面の十二支の虎に、象徴の縞がないことに気付いたことから、もしかして白虎は「東」に遠慮願って北面に移っていただき、その代わりに黄竜と同格の麒麟にお出まし願ったのでは、と思ったのです。

このように軒廻りの天空高くに龍、二階部分の空に朱雀・鳳凰、一階部分に地を駆ける麒麟と水面の玄武があると解釈しました。
各方位の守護神による家運隆盛と、水神を想起させる龍で火難防止という、東面の霊獣が龍を中心として、これしかないというような、絶妙な配置にあると思っています。

北面の十二支の動植物も、新築による、商売の新たな出発しとともに、子孫繁栄と家運隆盛を祈る意味が込められていると思いますが、如何でしょうか。
南面の酉とウサギ、蔵内部の事務所入口の冠木門の扉の大黒様と恵比須様、そして鶴・亀と、ありとあらゆる守護神、お使いの総動員です。
単に贅沢な鏝絵というより、商売永続と家運隆盛、そして地域の安泰を祈った、仁太郎氏の強く深い必死の想いを感じるのです。
この敬虔さも「仁太郎ワールド」の一面なのです。

「巳(ヘビ)と申(サル)がいない」ことについての珍説

　十二支のうち、巳(ヘビ)と申(サル)がいない、ヘビは皆に嫌われるし、サルは去るに通ずるとして、作成から外れた、という説明も可能と思いますが、一方、以下のような解釈も成り立つと思っています。
最近、私は、「去る」の話もありますが、「こっちの話もいいですよね」ということで、次のようなお話をしています。

　十二支は、もともとは穀物の一年、種蒔きから収穫までの十二の推移を表わしたものを、覚えやすいよう、動物に割り当てたと言われています。
その意味では、十二が揃ってはじめて、五穀豊穣になり、一部を省略するのは、真意ではないのでは、と考えてもいいと思います。
そのように考えていくと・・・。

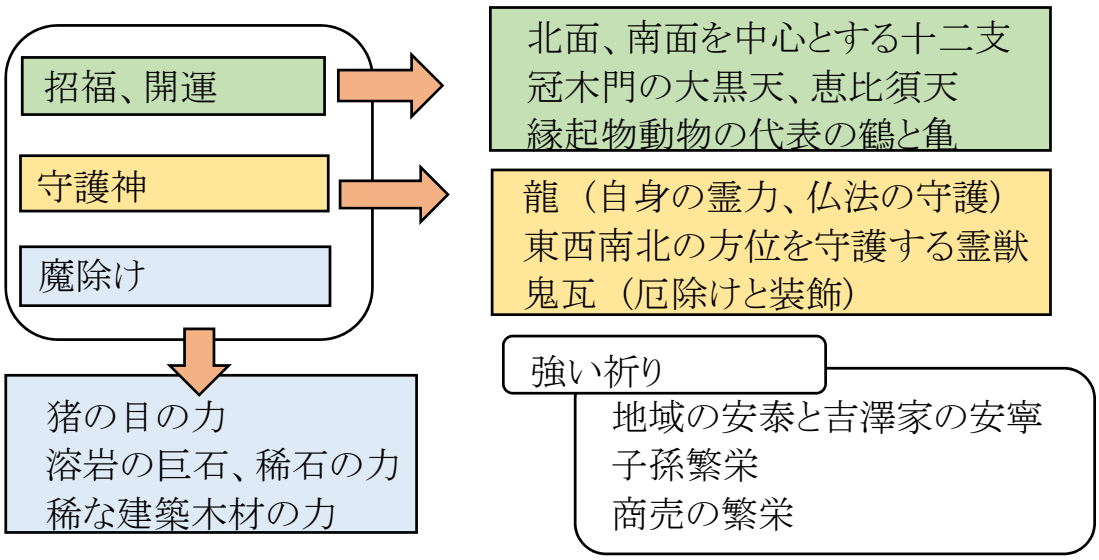
一階の冠木門を飾る戸に、恵比須様と大黒様がいます。
恵比須様は、もともと、漁業の神様でしたが、そののち、商売繁盛、五穀豊穣の神様になった、といわれています。
大黒様も、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄の神様です。 ということで、
　巳は、玄武という「生殖と繁殖」を表わす神獣に変化して東面に行き、申は、七福神のうちの恵比須様と大黒様に変化して一階内部に行き、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄を祈った、と考えられないでしょうか。
　このほうが、東面の四霊獣による地域の安全・安泰と合わせ、十二支勢揃いによる、商売繁盛、五穀豊穣、子孫繁栄への「懸命な祈願」に合致するように感じています、という説明は、如何でしょうか。

（MfG_J_kotee_embodiment_of_his_wish）

図表

(C) Kasuga

敷地内を、招福、守護神、魔除けのありとあらゆるシンボルで埋め尽くし、地域の安泰と吉澤家の安寧、子孫繁栄、商売の繁栄・永続を祈った。 それが「仁太郎ワールド」。



シンボルの一例 r@v)

龍のもつ力を信じた仁太郎は、鯉、石や木の自然力、不動明王にも、相通じる力、招福・守護・魔除けの力を感じ、これらのシンボルで埋め尽くした。

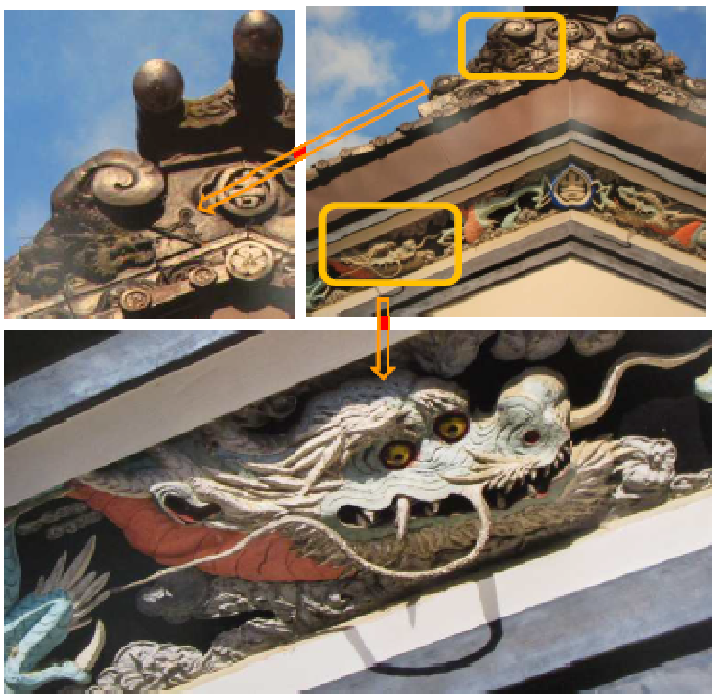
(1) 鯉は、登竜門ということばがあるように、龍になる。清い流れの川にも、よどんだ池もに棲むことから、いかなる艱難辛苦にも耐える強く勇気のある魚のシンボルとされる。
その由来は、後漢書にある「黄河の登竜の伝説」として知られる。

(2) 溶岩の築山、パワーストーンにもなる稀石の巨石など、自然石が有する偉大な力、巨木や稀な木々が有する霊力、守護の力とともに、自然界のもつパワーの溢れる庭園、建築物になっている。

(3) 庭園、そして鏝絵蔵のコレクション室に、除災招福、悪魔退散のもつ不動明王がある。龍神は、不動明王の化身とされる。

Facility	龍	鯉	巨石、稀希材木	不動明王
鏝絵蔵の軒下	○			
鏝絵	○			
衣装蔵	○	○		
庭園	○	（○）	○	○
接待用別邸（離れ）	○		○	
鏝絵蔵コレクション室	○	○		○

龍の霊力が守ってくれる



東面は、四方の守護神の四霊獣を表わすと見ています。古代中国では、生き物を鱗、毛、羽、甲の四類に分類し、四つのそれぞれを統括する長（王）が、応龍・麒麟・鳳凰・霊亀で、四霊獣とよばれます。
また東の青龍、西の白虎、南の朱雀、北の玄武と方角の守護神としての四霊獣とよばれるグループもあります。
このように、龍は、東西南北の四霊獣の龍、五虫の最上位の四瑞獣の龍、十二支の辰、そして火防の守護神、仏教守護の龍と、全部を兼ねた、中心なのです。

2. 鏝絵蔵・鏝絵の配置のテーマ

虚空に棲み、睨みを利かす青竜、さらに四方守護神の上の黄竜 火のごとく力強く、風の如く自由に舞う鳳凰 大地を自由に駈ける麒麟、水面を自由に泳ぐ玄武 ～　永遠の家業継続と発展、繁栄を祈る

サフラン酒の鏝絵東面は、北面の十二支を併せて考えると、瑞獣の四霊のみでは説明がつきません。 方位守護神・霊獣の四神と、瑞獣の四霊を兼ねた意味を持たせているように思えてなりません 。（解釈の発端は寅に白虎を配したこと。）

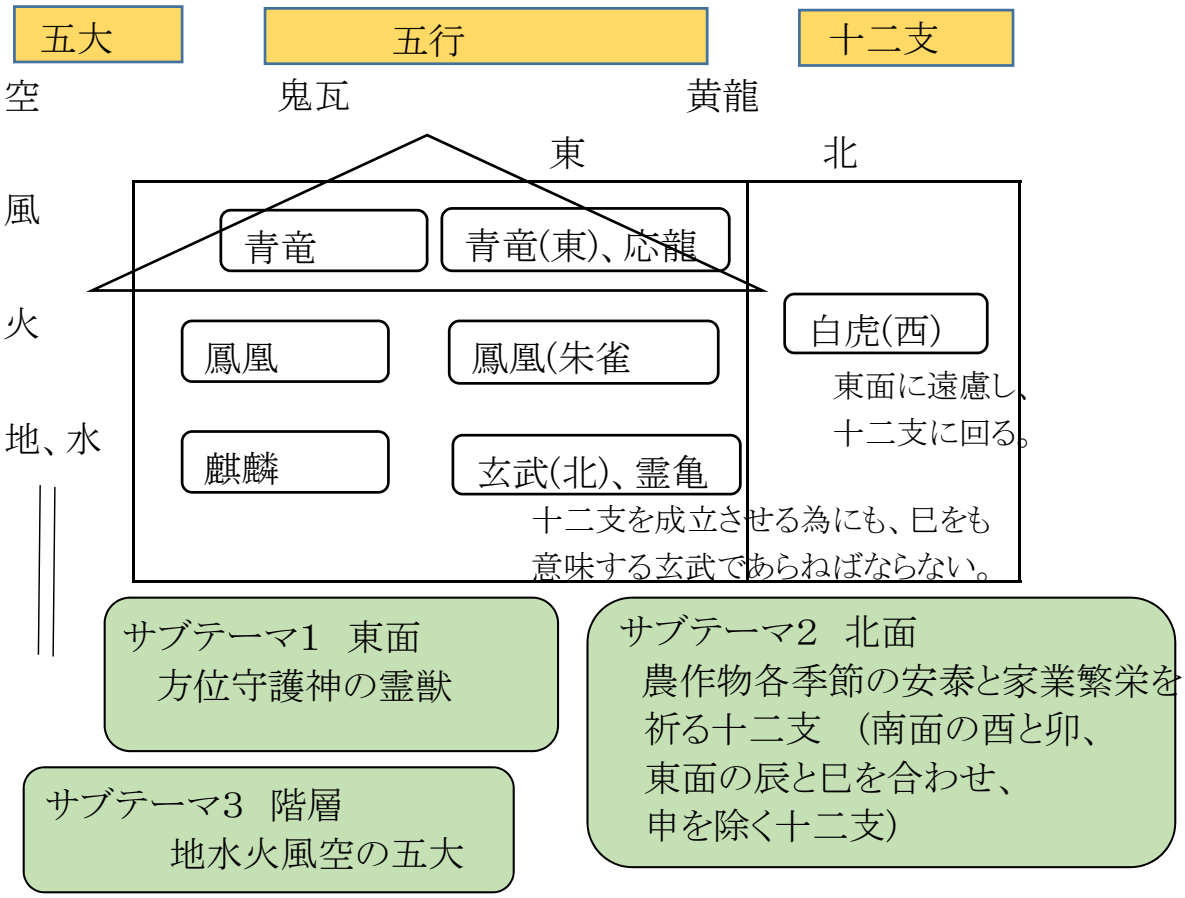
霊獣の四神と瑞獣の四霊について

四神は、中国の神話、東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武で、天の四方の方角を司る霊獣である。

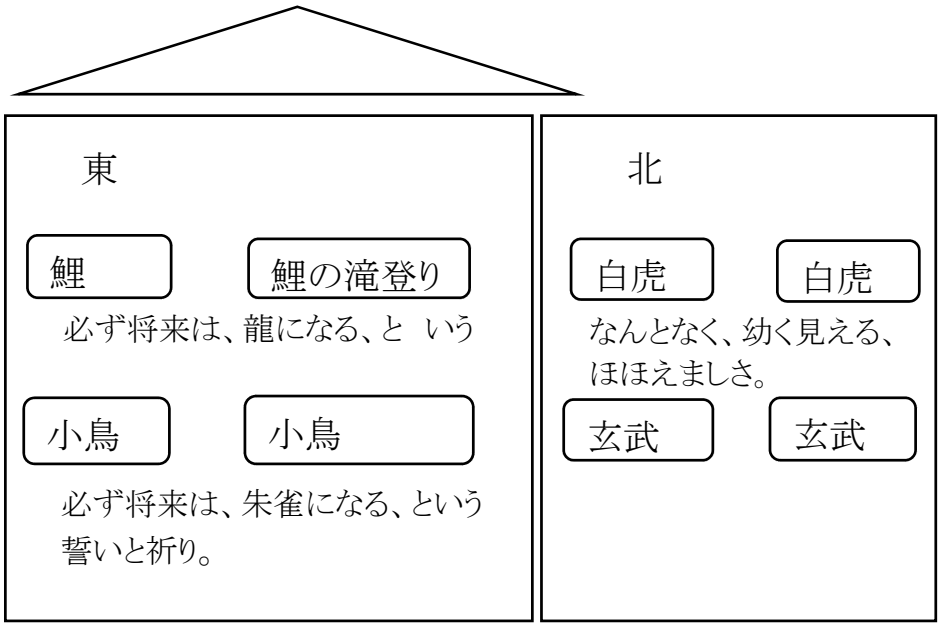
また、瑞獣の四霊（応竜・麒麟・霊亀・鳳凰）を四神と呼ぶこともある。

四霊（しれい）とは『礼記』礼運篇に記される霊妙な四種の瑞獣のことをいう。

麒麟は黄龍と同義。　鳳凰は朱雀でもある。



その前段として、衣装蔵は、誓いと祈り



従って、鏝絵蔵の主題が四霊獣であることは、明白

(1) Around Kote-E gura

(7) Namako Kabe in all surface

Very beautiful and gorgeous.

2. An insightful view of the Japanese naturalist, Prof.Aramata.

H.Aramata,"Aramata Art magazine",Shin-Syosha(2010)

More than 20 years ago, Prof. Aramata, Professor of Tamagawa University, well-known naturalist) had insighted the meaning of TheFour Sacred Beasts of China and Chinese zodiac drawn on the warehouse walls of Kina-Saffron-Shu brewery
Prof. Aramata recognized them as an embodiment of the founder's wish that first, the family would continue forever (descendants prosperity) and second, success in business would continue forever (business prosperity) .

I think one of the important ideas the founder, Yoshizawa Nitarou, had is to fulfil all the buildings and the garden by symbols of inviting good lucks and talismans against evil.
The typical symbols in the Kina-saffron-Shu Brewery are Chinese dragons and I-no-me. Both are considered as guardian deity or talismans against evil.
You can find several Chinese dragons on the walls of buidings, Byou-bu, and Ramma in the buildings including the reception house. In particuilar, the Chinese dragons are guardien for Buddhism.
You can find a lot of I-no-me pattern inside the receptio house, decorating all the corners of window-glass.
I-no-me pattern is one of the oldest patterns in Japan, eyes-pattern of wild-pig. It is thought as behaving as talismans against evil.

Aramata Hiroshi (1947-)
Japanese naturalist, Novelist.
Visiting Professor, Tamagawa University
Professor, Musashino Art University